

029

被災地の通信サービスを早期に復旧するために 機動性のある災害対策機器を導入・活用

取組主体【掲載年】	法人番号	事業者の種類【業種】	実施地域
東日本電信電話株式会社他 【平成 27 年】	-	インフラ関連事業者 【情報通信業】	全国

取組の概要

早期復旧に向けた取組

- NTT グループ各社では、発災時においても、通信サービスを途絶えさせることなく提供すること、通信設備が被災した場合でも早期に復旧させることを目的に、機動性のある災害対策機器の導入・活用を推進している。
- これらの機器を活用しつつ、阪神・淡路大震災の際には火災等の影響で多くの通信ケーブル等が焼失したが、約 2 週間でお客様の居住地域の通信設備等を復旧することができた。また、東日本大震災の際には、津波による影響で広い地域にわたり多くの通信設備が甚大な被害を受けたが、1 ヶ月半程度の期間で復旧を達成した。

NTTグループの災害対策

NTTグループの「災害対策に関わる基本方針」

NTTグループでは、皆様の安全と安心をお届するため、「ネットワークの信頼性向上」、「重要通信の確保」、「サービスの早期復旧」を基本方針とし、日々災害対策へ取り組んでいます。



▲NTTグループの災害対策の基本方針

取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

代表的な災害対策機器、復旧用資材機器

- 同グループにおける代表的な災害対策機器・復旧用資材は以下のとおりである。
 - <移動電源車>
長時間停電が発生し、通信ビルや無線基地局の予備電源（バッテリー、エンジン）も停止した場合、移動電源車が出動し、最大 2,000kVA の電力（およそ数百世帯分の電力）を供給する。
 - <ポータブル衛星装置>
通信方式として衛星を使用しており、避難施設等で特設公衆電話等を提供する。
 - <可搬型デジタル無線装置>
通信ビルと通信ビルをつないでいる中継伝送路が故障した際、対向で設置して応急復旧する。
 - <衛星エントランス車載 移動基地局車>
地震等の災害時出動し、搭載した衛星回線により携帯電話が使用できないエリアをカバーする。

	
移動電源車	ポータブル衛星装置
	
可搬型デジタル無線装置	衛星エントランス車載 移動基地局車

▲NTTグループの災害対策機器・復旧用資材機器



▲移動基地局の設置

▲電源確保のための移動電源車の出動

取組の平時における利活用の状況

信頼の確保に向け、訓練や演習等を行う

- 災害対策機器・復旧用資材機器は、有事の際に円滑かつ適切な災害対応が遂行できるよう、平時において様々な場面を想定し、通信サービスの早期復旧に向けた設置訓練及び演習等を行っている。

周囲の声

- 長時間停電に対応する移動電源車、避難施設等で特設公衆電話を提供するポータブル衛星装置等の災害対策・復旧用機器の確保、そして、それらを取り扱う要員の確保（訓練・演習）により、発災時には、迅速に復旧対応に当たり、通信サービスの途絶による影響を最小限にとどめることができる体制が構築されている。（防災関係団体）